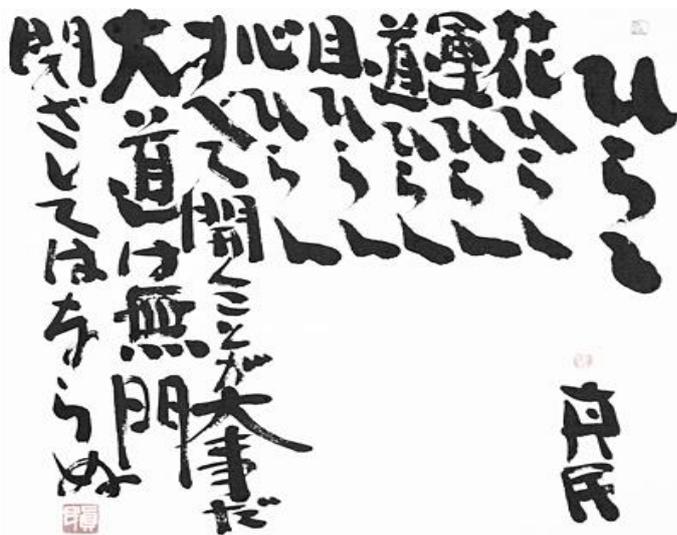


笑う門には 福来たる

(株)日本交通社
発行人 光田秀之
☎089-946-3911



坂村真民記念館 (砥部町)

明朗・愛和・喜働

桜を想う

日本には四季があり、私たちの祖先は古くからその移ろいを敏感に感じ取り、自然の美しさに心を重ねて和歌に詠んできました。

世の中に たえて桜の なかりせば 春の心は のどけからまし

これは平安時代の歌人・在原業平が詠んだ和歌で「もしこの世に桜がなかったなら、心を騒がせることなく春をのどかに過ごせただろうに」という意味です。

この和歌が詠まれてから千百年以上が経ちますが、現代の私たちの中にも桜に対する変わらぬ美意識があることに驚かされます。

桜は開花までが待ち遠しく、満開になったと思えば、雨や風で散ってしまわないかと心配になり、その様子に一喜一憂して気持ちが落ち着かないものです。

各地の桜の開花予想日を「桜前線」と呼び、ニュースになるのも日本ならではの風習でしょう。いかに日本人が桜とともに暮らしているかがよく分かります。

日々忙しく過ごしている私たちですが今年はいつもと違った視点で桜を眺めてみてはいかがでしょうか。

◆桜の儚さに心を寄せましょう

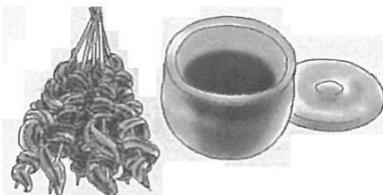
「職場の教養」より

どじょうの蒲焼き(石川県金沢市)

日本再発見!

その名の通り、どじょうを開いて串焼きにし、甘辛いタレをつけた金沢市の名物だ。どじょうは栄養価が高くたんぱく質やカルシウム、リン、鉄分を豊富に含んでいる。酒の肴にも、うってつけだ。明治時代に、金沢市の卯辰山(うたつやま)に流された、改宗を拒んだキリスト教徒が生活の糧とするために、どじょうの蒲焼を売り歩いたのが始まりだという。

一方で、江戸時代の屋台で売られていた記録もあり、正確な発祥は定かではない。



やぎけん

乾杯の

前の一言長すぎる

いつでも、どこにでも
学びはある

